

ハーモニー

第30号 2002年12月10日発行
日本養護教諭教育学会

日本養護教諭教育学会

事務局：〒310-8512

水戸市文京2-1-1

茨城大学教育学部

大谷研究室内

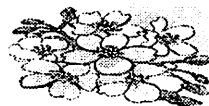
TEL 029-228-8298

(Fax兼用)

振替口座：00880-8-86414

目次

第10回学術集会を終えて	1
第10回学術集会アンケート結果.....	3
学術集会参加者の声	4
ワークショップ	
「教育現場における医療的ケアと養護教諭」を終えて ...	5
「養護教諭の英訳および本学会英訳名 に関するワーキング」経過報告	6
第11回総会報告（速報）	
— 新役員と次期学術集会実行委員長決まる —	7
事務局だより	7



☆ 第10回学術集会を終えて ☆

実行委員長 小林 壽子
(鈴鹿国際大学短期大学部)

感動と感謝の学術集会を終え、1ヶ月余り経った今もその余韻を感じる此頃でございます。

顧みますと、思いがけないお話を大谷理事長より夜半のお電話で頂きました際には、とんでもないことと即座に申し上げました。しかしながら理事長は、学会設立時代に世話人であったこと、他学会長を務めたこと、会員である事などを話し続けられました。それでも私は、私立短大での困難性や自分の能力、年齢などを申し上げたのですが、ついに熟慮する期間をお願いし、受話器を置いたのが、昨年8月初旬でありました。3日間考えた末、学内の関係教員に伝えました。そこでは、理解と協力と更に一緒に自分たちも頑張るからと賛意を得たのです。どれ程勇気づけられたことでしょう。

それからの段階は思っていたより容易に進んでいきました。本学学長、そして三重県養護教諭教育研究会の理事会を経過し、教授会の賛意も得られたのは1ヶ月後でした。

その後、初回からの学会抄録集、学会誌を徹底的に調べ直し、メインテーマを始め日程、内容等の一覧表作成後、何日も凝視しては検証した結果の案を実行委員会、2月の学会理事会へ提案いたしました。

こうして迎えた第10回学術集会は、職制60年という節目を記念すると共に、学会発足後10回目という山を一つ越えられたのではないかと思います。微力でありましたが、学会理事長始め理事の方々、ご参加くださいましたお一人お一人のお陰でありましたことを、心からお礼申し上げます。皆様、有り難うございました。

*** 熱い眼差しと熱心な姿勢が
伝わってきた学術集会 ***

実行委員 木野本 はるみ
(鈴鹿国際大学短期大学部)

当地鈴鹿で初めて開かれた第10回学術集会は、多数の会員の皆様の参加、協力をいただき盛大かつ成功に終わりましたことは非常に喜びです。学会員の皆様のこの学術集会に対する熱い眼差し、熱心な姿勢が私たちスタッフにもひしひしと伝わりました。本学及び他大学の学生さんの参加も得て大変嬉しく感じました。

ご講演いただきました講師の先生、平素の研究の集積の発表やシンポジウム、ワークショップ、それぞれの場で参加者の建設的なご意見、ご質問はきっと今後のこの学術集会の発展につながるものという思いを強くしました。

懇親会は学会場と少し離れた場所であり、バスの運行ではご迷惑をおかけいたしました。しかし、和やかな雰囲気の中、会員相互間の親睦が図れたように思います。この催しのため、実行委員はいろいろ準備、検討を重ねて参りましたが、何かとご迷惑をおかけいたしましたことを心からお詫び申し上げます。

★ お知らせ

本学会第10回学術集会抄録集の申し込みを終了させていただきます。
ありがとうございました。

*** 心がひとつになり

喜びが多かった学術集会 ***

実行委員 稲垣 翰子
(三重県立津工業高等学校)

好天に恵まれ、第10回学術集会の重責を成功裡に納めることができたというお声を、皆様方よりいただけるのは、ただ偏に会員皆様方の熱意あるご協力とご支援の賜と、実行委員一同心より感謝致しております。

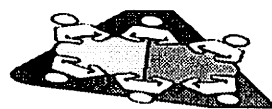
思えば実行委員長小林壽子先生より、「第10回学術集会を三重県でという話があるのですが」とその内談を、三重県養護教諭教育研究会理事会にもちかけられた時には、突然のことで即答できなかったものの、この話を進めていくうちに「やりましょう」と理事一同の心がひとつになり、起立して結団式を行った実行委員発足のあの日のことが、今なつかしく思い出されます。

その後、会場・宿泊先は？学術集会の内容は？会場設営などにつき度重なる実行委員会を開き準備を進めて参りましたが、何分にも不慣れで不行き届きのことが多々あったことをこの場をお借りして深くお詫び致します。

ところで今回のメインテーマが、養護教諭の固有性の追究にあり、このことを多方面から真剣にご意見ご討論いただいたことは、現職の養護教諭の身である私にとって、良き刺激となり考えさせられる喜び多い学術集会でした。

この養護教諭の固有性の活動が、教育界で健康教育の中心的担い手として、実際に学術的に結集できる学問となることを願い、学術集会実行委員を終えての言葉とさせていただきます。

最後に、今後も実りある学術集会の開催とますますの躍進をお祈り致します。



*** 学術集会事務局後記 ***

実行委員 堀川京子・大西真由実
(鈴鹿国際大学短期大学部)

三重県それも鈴鹿市のこの小さな鈴鹿国際大学短期大学部で、日本養護教諭教育学会第10回学術集会を行うということになり、初めは事の重要さが分かっていませんでした。しかし、実行委員長小林壽子先生のご指導のもとで徐々に準備をしていくなか「この学会を成功させることは、本当に大変なことだ」と気づき、焦りました。準備が連日連夜続いてくると、準備風景が夢にまで出てきたり、本番が近くなると保健管理センター（事務局の場）が書類の山になってきたりして、大変な慌てぶりでした。この焦りや不安から不行き届きな点、ご迷惑、ご不便をかけることが沢山あり、申し訳なかったなど今、反省をしております。（堀川京子）

終えて感じたことは一人一人の力が集まると無理に思えたことも出来るのだなということでした。抄録集を一字一句見直したり、学内休憩所の机に掛ける布を作ったり、協賛金集めに走ったり、そんな一人一人の実行委員の力が集まって大きな力になったように感じました。

私達も交通案内を作るために、鈴鹿 I.C.から短大までの道のりを車を走らせ何とも要領が悪いと思いながらも、どのように書けば迷わず会場まで辿り着いてもらえるか、2つの小さな脳で考えました。抄録集や交通案内の使い心地はいかがでしたでしょうか。（大西真由実）

事務局・実行委員を引き受け、いろいろと学ばせていただきました。また無事成功しましたのも皆様のおかげだと心より思っております。本当にありがとうございました。

第10回学術集会アンケート結果

学術集会実行委員会

第10回学術集会は10月5日(土)～6日(日)『鈴鹿国際大学短期大学部』で開催され、県内外より多数の方々(231名)にご参加いただきました。また、三重県養護教諭教育研究会の方々、鈴鹿国際大学短期大学部の学生さん達のご協力、無事、会を進めることができ、実行委員一同、心より感謝しております。参加していただきました先生方から貴重なご意見をいただきありがとうございました。

《アンケート結果は次のとおりでした》

I. 回答者数：県外23名 県内17名 計40名

1. 年齢別

- ・20歳代 9名・30歳代 7名・40歳代 10名
- ・50歳代 6名・60歳代 8名

2. 校種別

- ・小学校 4名・中学校 6名・高等学校 9名
- ・盲・聾・養護学校 1名・大学関係 12名
- ・学生 4名・無回答 4名

II. プログラムの構成について

〔満足；32・普通；7・不満足；0・無回答1〕

{意見あり7}：「一般演題が多くなり、分類してあったのでとても充実してよかった」というご意見がたくさんありました。また、「特別講演の時間を短くし、共同研究に時間を多くとってほしい」とのご意見がありました。

III. シンポジウムについて

〔満足；28・普通；7・不満足；0・無回答；5〕

{意見あり12}：「メインテーマは誠に適切で、演者が多方面の方々だったので、いろいろな立場の話を聞いてよかった」「とても難しいものだと思うが養教の固有性を考えるよい機会になった」「今後の課題を大きく話し合えた」また、「熱の入ったシンポジウムになってよかったがもう少し、時間が欲しかった」というご意見も多数ありました。

IV. 共同研究・ワーキングについて

〔満足；27・普通7・不満足1・無記入・5〕

{意見あり7}：「今までに見られなかった新メンバーが加わりこれからの発表が期待される」

「量的な研究も大切だが質的な研究というものも、もっと大切になってくる」また「英訳ワーキングについては『養護』そのものの学問的弱さがここへ来て明らかになったといえる。学問的基礎作りを頑張っていきたい」「発表方法、記述方法(用語の使い分け等)にもっと工夫が欲しい」というご意見もありました。

V. 一般口演について

〔満足；23・普通；10・不満足；3・無記入；4〕

{意見あり11}：「大勢の参加、多くの発表者でかつてない活発な交流ができてよかった」「演題数が増えるのはよいが、内容、研究水準がまちまちで養教の力量向上に必ずしも関連させていない」というご意見をいただきました。

VI. ワークショップについて

〔満足；29・普通；3・不満足；1・無記入；7〕

{意見あり5}：「VTRやスライドで視聴覚的にケアの内容がよく理解できた」「今後の重要課題となるテーマだけに考える機会が持ててよかった」また、「知識の件、養成でどこまで必要か等、今まで学会では深く突っ込めない部分が話されてよかった」「ワークショップの発表の組み合わせが全てよかった」また、「医療的ケアについて、養教として何をすべきかを話し合っただけよかった」というご意見もありました。

VII. その他

{意見あり23}：「全体的に充実した内容であり、大学全体で運営されスタッフの動きもスムーズで細かい気配りが感じられて心温まる2日間でした」というご意見を多くの先生方からいただきました。「宿泊地と会場とのアクセスが不十分で時間の余裕がなかった」との意見がありました。

VIII. 学術集会を何で知りましたか(当日会員の方)

雑誌・恩師・会報等で知った。

☆アンケートにご協力くださいました方々に、お礼申し上げます。皆様からの貴重なご意見を次期学術集会にいかしていくために第11回学術集会の実行委員の方へ申し送りました。



☆ 学術集会は私の気付き ☆

山平 美代子

(兵庫県立加古川西高等学校)

私が最初にこの学術集会に参加させていただいたのは、確か第4回の奥羽大学構内で開催された時だったと記憶する。当日は日本学校保健学会があり、その後で何気なくこの集会に出させていただいた。一般口演や「今求められている養護教諭の力量とは」のパネルディスカッション等があり、それぞれの立場からの提言と討議がなされた。養護教諭を論ずるこんな場があることを初めて知り胸が打ち震えた。私にとってこの学術集会は、仕事に対して背筋を伸ばせるものである。

今回特に「養護教諭の固有性を追究する」というテーマに心惹かれ、私なりの「固有性」を抱えて参加した。シンポジウムでは養成教育に携わる先生方の意見が目立ったが、ワークショップでは教育現場から「世界に類を見ない日本の養護教諭」の活躍ぶりがうかがえた。すべての児童生徒の健康を願う養護教諭には、高い資質と研究心を持っている者が沢山いる。学術集会では、現場と養成機関双方から意見交換をさせていただき嬉しかった。

現場での実践結果を発表する分析力・方法論などを養成機関の先生方にご教授願ひ、共によりよい健康教育を目指していきたい。こういった意味においても学術集会は、養護教諭が知識や技術を共有できる宝庫である。

講演者やシンポジスト、一般口演の諸先生方、会場から発表された先生方からいただいたエネルギーと思慮深いご意見を参考にさせていただき、また明日から現場でがんばりたい。文部科

学省の田嶋先生や前任者である女子栄養大学の三木先生のご意見も伺えてよかった。また現場から養成機関に入られた先生方の貴重なご意見をお伺いでき、あらためて「養護教諭の固有性」を考えさせられた2日間であった。

☆ 学術集会に参加して ☆

小川 浩子

(國學院大學栃木短期大学)

「日本養護教諭教育学会の学術集会」に初めて参加させていただきました。

第10回学術集会の会場となりました鈴鹿国際大学短期大学部は、名古屋より近鉄線白子の駅まで約1時間、更にスクールバスで30分、と郊外の静かな環境の中でありました。

今回のメインテーマとなりました「職制60年を経た今、日本の養護教諭の固有性を追究する」は昨年のシンポジウムからの継承ということを知り、本会の求めているもの、そして今後への道筋に触れることができました。

一日目は、3会場で保健室登校・養護教諭の健康相談活動・養護実習についてそれぞれ3名ずつ9名の先生方の発表がありました。どの学会も同じように同時に展開されますので、心引かれながらも、すべての発表に参加することができませんでした。午後からは、「養護教諭」の英訳ワーキングの報告がありましたが、日本独自の職種である「養護教諭」をどう捉えるか、そして、それを世界にむけてどう発信するかは「養護教諭の固有性」そのものに迫るものと強く感じました。

かつて、「養護を掌る」ことの意味、そこか

ら来る職務内容の曖昧さにぶつかり、「私は何を
をする人か」と悶々としていた時があります。
そして、その答えを内地留学に見いだそうと
したあの頃のことが、新鮮な思いで浮かんでき
ました。「医学」や「看護学」のように、学問と
して「養護学」がないのかを指導教授に尋ねま
した時、「それを、これから養護の先生方で作
ってください」との答え。目から鱗のような思
いと同時に、一方では大きな荷物を背負わされ
たような思いであったことが、ふつふつと浮か
んできました。

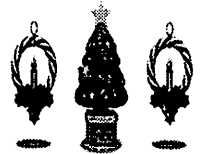
あれから30年、そのためには「何を・どう」
ということが私の支えであり柱でもありました
ので、「養護を掌る」「yogo teacher」がどのよ
うに構築されていくのか興味がありました。

二日目は、3会場に分かれての研究発表、シ

ワークショップ

「教育現場における医療的ケアと養護教諭」を終えて

コーディネーター 天野 敦子（愛知教育大学）



医療技術の進歩と健康保険制度の拡充やノー
マライゼーション、マイノリティーを尊重する
社会的気運の高まり等を背景に、養護学校にお
いて医療的ケアを必要とする子どもたちが増加
してきました。医療的ケアは、医療・教育・福
祉にまたがる問題であり、その対応に関してま
だ結論は得られていません。しかし、養護学校
においては学校における医療的ケアの問題に関
して、現実的な種々の問題を抱えながら研究的
な取り組みがなされています。来年度から就学
基準が緩和されることにより、一般校にも医療
的ケアの必要な子どもが就学する可能性が出
てくると思われれますが、あまり情報が得られて
いないように思われれます。

そこで、今回のワークショップでは、三重県
立きらら養護学校の倉田敦代先生から看護師を
導入して担任が行っている実践について、神戸

ンポジウム、ワークショップとぎっしり詰まっ
た日程にもかかわらず、フロアーからは多くの
意見が飛びかい、発表者、提案者、そして参加
者の熱い思いが閉会時刻を忘れさせるほどのも
のでした。

他職種や管理職が養護教諭をどう視ているの
か、また何を期待しているのか、日々の執務の
中にある養護教諭の固有性とか、諸外国のスク
ールナースから何を見いだすか等々、私には多
くのを投げかけられた二日間でした。そして、
養護学校における医療的ケアは、養護学校
に勤務する養護教諭の問題だけではなく、バリ
アフリーの今、学校全体としてかかわってくる
問題であり、今後への大きな課題になるのでは
ないかと感じました。

市立垂水養護学校の丸山有希先生から養護教諭
の助言で担任が行っている実践について、各養
護学校での医療的ケアに関わる具体的な活動を
映像で示しながらわかりやすく報告していただ
きました。それに加えて、フロアーからの活発
な意見をいただき種々の課題が浮き彫りになり
ました。しかし、今回のワークショップでは時
間の制約もあり、医療的ケアに養護教諭として
どのように関わっていけばよいかについての第
一步を踏み出した所です。さらにいろいろな考
えを出し合ってよりよい方向を模索していく必
要があることを痛感いたしました。参加者の皆
様が今回のワークショップで得た課題をそれぞ
れの地に持ち帰り、話し合いの輪を広げていた
だきたいと願っています。最後まで熱心に多く
の皆様にご参加いただきましたことにこの場を
お借りして感謝申し上げます。

「養護教諭の英訳および本学会の英訳名 に関するワーキング」 経過報告



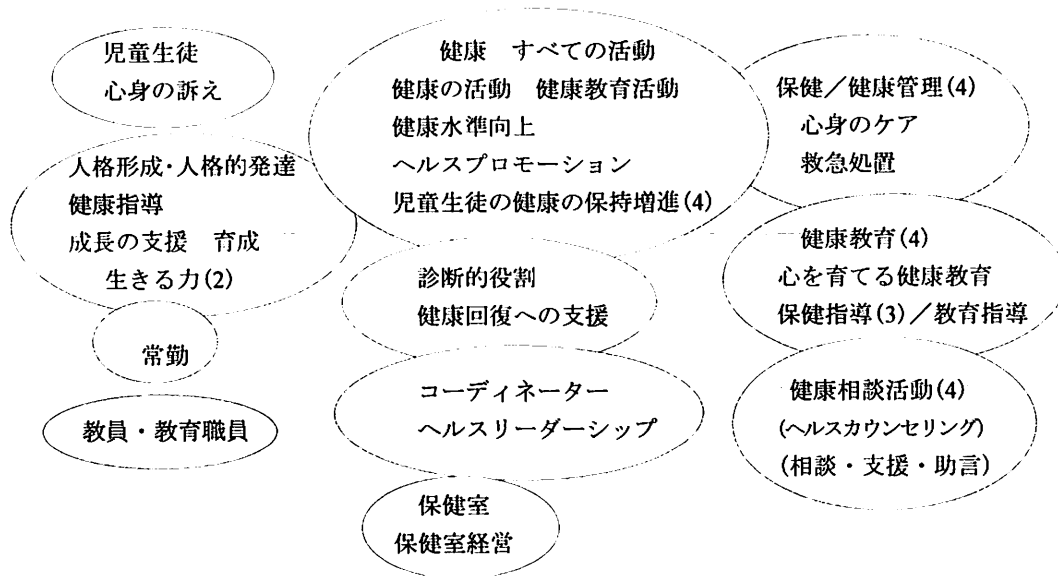
ワーキンググループ代表 鎌田 尚子(女子栄養大学)

平成 14 年 10 月 5 日(土)第 10 回鈴鹿学術集会において、小林冽子座長(千葉大)のもと英訳ワーキングの経過中間研究発表を行った。

ハーモニー 29 号で概要を知らせてあるように、Yogo teacher の英語説明が本年度の仕事である。「養護教諭は何をする人か?」は、職業を定義する命題であり、アイデンティティを問う重要な課題であることを共有した。次に、W. G メンバーが作成した「養護教諭の役割・機能と専門性を説明するキーワード(図 1)」を提示し、考え方の視座は、揺れ動く社会と学校現場、子どもの健康問題に関わる専門職、学際分野や社会からの多職種との参入の狭間にあって「養護教諭の専門性と

固有性、独自性(本学会テーマ)」を目指すことを報告した。そのための方向性や会員の言葉 一柱にすべき考え、補足意見、新たな枠組み、賛成、疑問や確認等— の自由な発言を求めた。

その結果は、①「常勤」を入れる。②教職員との関係・連携の役割が重要になっている。③「健康」の概念を大きく捉えたい。④児童生徒の心身の健康な発育・発達を支援する。⑤健康管理と健康教育の専門職。⑥「養護教諭の名称をどのように捉えているか」全国の会員に実態調査をする等のご意見を頂いた。これらを基に 12 月 21 日第 3 回 W.G において本グループにおける結論を出す予定である。



() 数字は、頻出人数

図 1 養護教諭の役割・機能と専門性を説明するキーワード (第一次案 2002.7.21)

第11回総会報告（速報）



－ 2003 年度からの新役員と 次期学術集会実行委員長決まる－

第 11 回総会は 78 名の委任と 58 名の会員の出席の下、開催されました。議長は徳山美智子会員と理事の楠本が担当しました。総会で承認または可決された議案について報告致します。

議案 1 「2001 年度事業報告」: 第 9 回学術集会に 198 名の参加者があり、学会共同研究会が研究発表したこと、および「健康教育に必要な養護教諭の能力」研究班と「養護教諭の英訳および本学会の英訳名に関するワーキンググループ」が発足したことなどが報告され、承認されました。

議案 2 「2001 年度決算・監査報告」: 会費の増収と学会誌販売の収入により、繰り越し金が前年度よりも増額となりました。会計監査委員から適正に処理されているとの報告があり、承認されました。

議案 3 「2002 年度事業経過報告」: 2つの研究班に研究助成を行っていること、ハーモニー 30 号と学会誌第 6 巻第 1 号発行に向けて準備中であること、ワークショップ企画の公募で、「医療的ケア」が選ばれ、第 10 回学術集会において実施されること、来年度の研究助成金対象研究に応募がなかったため、理事会が「養護教諭の実践の評価について－研究の成果をどう生かすか－」のテーマで研究班を設定し公募を行ったという報告がされました。

議案 4 「2003 年度事業計画」: 「第 11 回学術集会は徳島市で開催されることが提案され、承認されました。研究班に研究助成を行うこと、ハーモニーを 3 回発行すること、学会誌第 7 巻第 1 号を発行すること、ワークショップの企画をすることが提案され、承認されました。

議案 5 「2003 年度予算案」: 予算案が提示され、承認されました。編集費や通信費の増額は会員の増加に伴うためとの説明がありました。

議案 6 「研究助成金対象研究の選定」: 「養護教諭の実践の評価について－研究の成果をどう生かすか－」研究班として「江寄和子、楠本久美子他」が提案され、承認されました。

議案 7 「養護教諭の英訳および本学会の英訳名に関するワーキンググループ」の活動について: 現グループは 2003 年 3 月末までに一応の結論を出して任期を終えること。今後の対応については、次期の理事会に任せることが提案され、承認されました。

議案 8 「新役員の選出」 について: 中村朋子推薦委員長から候補者が提案され、新役員として承認されました。

----- 新役員 ----- (五十音順) -----
理 事 天野 敦子, 植田誠治,
後藤ひとみ, 竹田由美子,
徳山美智子, 村瀬久美,
山崎 隆恵
会計監査 楠本久美子, 小林央美

----- 第 11 回学術集会 実行委員長より -----
総会の後、徳島大学の中安紀美子会員から第 11 回学術集会の実行委員長としての抱負が語られました。

(文責: 議長 楠本久美子)

事務局より

☆ 住所変更・所属先変更のある方は速やかに事務局までご連絡下さい。ハーモニーが返送されて連絡ができないケースが増えています。

☆ 学会誌のバックナンバーがあります。ご希望の方は FAX で事務局までお申し込み下さい。1冊 2500 円 (送料別) です。